



博物館だより

Vol.209 2012.9

ミニミニマインズ

秋田古銭物語

阿仁の鉱山が生んだ貨幣

平成24年度 鉱業博物館第3回特別展

- 開催期間 平成24年9月2日(日)～10月31日(水)
- 開催場所 鉱業博物館2階特別展示室

現在、当館2階特別展示室では特別展「秋田古銭物語～阿仁の鉱山(ヤマ)が生んだ貨幣～」を開催しています。

秋田市在住の佐々木眞市さんが、長年収集していた江戸時代の古銭の貸し出しを申し出てくださったことから企画がスタートしました。貨幣の原料となる鉱石、阿仁鉱山や加護山精錬所での精錬工程の様子、鑄造道具、外国人指導者メッグルにまつわる資料、貨幣の計量に使用された両替商の道具、そして秋田藩で鑄造された江戸期の貨幣など多彩な展示を展開しています。阿仁が生産した豊富な銀や銅は、バラエティに富んだ秋田銀判や加護山銭を生み出しました。

9月18日(火)にはサイエンスボランティアを対象に展示の説明会が行われました。今回の特別展示の中心となった鉱業博物館主事の今井忠男先生が解説、また博物館実習の一環として取り組んできた実習生が参加者の質問に

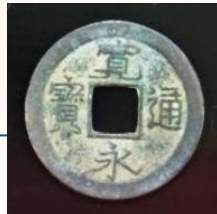
答えました。一般の見学者も飛び入り参加して、古銭に関する関心の高さが伺える勉強会となりました。



わかりやすい解説をしてくださった今井先生と参加者の皆さん



打ち出の小槌のオブジェが取り付けられた両替商の看板



↑寛永通宝(秋田川尻銭)。秋田市川尻の銭座で作られた。「永」の字の右の払いがはねているのが特徴



秋田一分銀。表面中央上部にある笹竜胆は清和源氏(佐竹氏の祖)の紋章と見られている→



阿仁鉱山産出の黄銅鉱。古銭の原料となる銀・銅を含む

粗銅から精錬された精銅の延べ板

鑄型枠。坩堝で溶かした銅の合金を砂で作った鑄型へ流し込んで銭の形を作る



秋田銀判九匁二分。秋田藩が証明する刻印の「改」の字から加護山製であることがわかる



第3回 秋田県鉱山サミット 秋田県の鉱山に見る歴史



秋田県鉱山サミットポスター

平成24年9月13日(木)、鉱業博物館において秋田県鉱山資料館等連絡協議会・日本鉱業史研究会共催による第3回秋田県鉱山サミットを開催しました。

このサミットは院内銀山異人館、大仙市協和大盛館、阿仁伝承館、史跡尾去沢鉱山、鉱業博物館の5館が相互の連携を図り、秋田県における鉱山史跡や文化の保存・伝承を目的として毎年開催しているものです。

今回も全国屈指の鉱山県であった

秋田を盛り上げていけるよう、活発な意見が交換されました。

午後からは「秋田県の鉱山に見る歴史」をテーマに7つの講演会が行われました。延べ103名の参加者を前にして、当館サイエンスボランティアの成田裕一秋田大学名誉教授をはじめ講師の方々が熱弁をふるいました。館内の見学ツアーにも多くの方が参加し、盛況のうちに幕を閉じました。



小中学校向け 鉱業博物館のリーフレットができました

小・中学生を対象としたリーフレットができました。円筒形の博物館をイメージした八角形のユニークな形が子どもたちに人気です。



ようこそ！
鉱業博物館へ



全6ページにわたって、大地とその恵みについて学ぶことができる当館の魅力をわかりやすく伝えています。

各階の見どころポイントや秋田産の化石や秋田に関わる展示などを紹介して、より身近に感じられるよう工夫しました。また積極的な見学のきっかけとなる仕掛けとして、展示物に関するクイズを盛り込んでいます。学習の場としての博物館をよりアピールするため県内各小中学校へも配布しました。

一般の見学者向けのリーフレットも完成間近です。お楽しみに！

ホームページ リニューアル

当館ホームページの常設展示のページが新しくなりました。

1階から3階までの各フロアと屋外展示に新たに加わった標本を中心に紹介し解説しています。

当館の展示標本は約3,300点を数えます。この膨大な標本への入口として、アクセスしてみたいかがでしょうか。肉眼で見ることの困難な微化石などの顕微鏡写真も掲載

していますので見学とはまた違った発見もありますよ。



人気の展示 自転車発電装置

実際に触れたり操作したりできる展示が好評ですが、中でも自転車発電装置が関心を集めています。

これは自転車をこぐと後輪タイヤに装着した発電機によって発電される仕組みで、自転車の前照灯の発電システムと同じ原理です。本学部ものづくりセンターの学生プロジェクトにおいて、企画・製作されました。ハンドルに設置されたメーターによって、自転車をこぎながら発電量を確認することができます。



何ワットになったかな？



発電電力測定装置

見学者からは、「自転車こぎがんばったよ。僕は5ワットまでしかいけなかったの、電気を発電するのは大変なんだな」「体感してみてもっと身近な自然エネルギーの開発に力を入れて欲しいと思った」等の感想が寄せられました。

展示の紹介 宝石コーナー

今回は宝石コーナーを紹介します。

魅力あるコーナーにしようと、博物館実習の課題として実習生がリニューアルを進めてきました。宝石とその原石を並べて展示し、カットや研磨処理などを施すことで際立った石本来の美しさをより実感できるようにしました。また展示台を円柱型にしてライトアップし、ラベルのデザインも一新して他のコーナーとはひと味違った華やかな一角になりました。今後はペリドットとその原石（かんらん石）なども加え、展示の充実を図っていく予定です。ぜひ一度足をお運びください。



標本の配列作業をする実習生



ファイヤーオパールの宝石。濃いオレンジ色の光沢が美しい



ファイヤーオパールの原石。オーストラリア産

無料開放のお知らせ

10/20(土)・10/21(日)

オープンキャンパス・秋大祭の両日はどなたでも入館無料で見学できます。ぜひどうぞ！お待ちしております。



キバナコスモスの咲く博物館前